

むいかまちどおりしょうてんがい

六日町通り商店街 (六日町通り商店会)

宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎六日町

空き店舗の発掘と開業促進活動を 両輪で展開し、商店街を再生



取組の背景

店主の高齢化による廃業 商店街の空洞化が課題

六日町通り商店街は、人口約1万人の栗駒地区における中心商店街で、昭和までは鉱山で働く人やその家族で賑わいを見せていた。しかし、鉱山が閉山し、2007年には鉄道廃線に伴い近隣駅が閉鎖して商店街は徐々に活気を失っていた。

そのような環境下でも六日町商店街は発足当初から商店街組織がイベントや販売促進を継続的に行っており、移住者をオープンに受け入れる土壌があった。そこに2015年、県外より移住し市内でギャラリー「風の沢ミュージアム」を運営していた古民家カフェ店主が、

取組の内容

商店会内の組織連携により 商店街の魅力の創生・発信

主な取組として、空き店舗の発掘と開業促進活動を両輪で展開し、商店街の再生に取り組みつつ、これまでと異なる視点で賑わいの創出を図ることで、新たな来街者の獲得も進めている。

空き店舗の発掘と開業促進活動として、2016年から地域おこし協力隊を商店街に招聘し開業促進活動を開始した。また、2019年に古民家カフェ店主と地域おこし協力隊のメンバーがまちづくり会社「六日町合同会社」を設立。仙台や近隣市町村の専門人材の協力を得て、開業支援事業や空き家の片付け、物件のサブリースなど移住者が開業しやすいまちづくりを目指した事業に取り組んでいる。

賑わいの創出へ向けた取組として、六日町通り商店街を歩行者天国にして開催される伝統的なお祭り「くりこま夜市ナイトマーケット」は、若手がマルシェとライブを組み合わせた個性的なイベントとして企画し、地域内外から来場者を集め評判を呼んだ。そのナイトマーケットを企画運営した実行委員と既存店の若い後継者が中

古い薬局の建物を生かしてcafeかいめんこやを開業した。また、店主の高齢化により廃業が進み商店街が空洞化することが予見されたため、その対策として2016年から商工会と連携して地域おこし協力隊を募集し、「空き店舗調査」を実施した。

今後は高齢化による廃業が進むなか、商店街を維持するためには新たな開業者をさらに増やすことが必要となる。

現在、物件と開業者を仲立ちするサブリース事業も着手し、開業しやすい環境整備を進めている。今後持続的に事業展開していくために、資金、人員の不足をどうクリアするかが課題となっている。

心となり、商店会の内部組織として新たに「未来事業部」を発足。イラストマップの製作や、スタンプラリーの開催など商店街の魅力を発信する事業において中心的な役割を果たすようになった。

商店会をまとめる商店会役員、行政と協働する地域



くりこま夜市ナイトマーケット



くりこまぐるぐるスタンプラリー

おこし協力隊、デザイナーを擁し新しい発想をもつ未来事業部、外部協力者と繋がる六日町合同会社がそれ

ぞれの役割を果たしながら、商店街の魅力の創生・発信を進めている。

取組の成果

新たな商店街振興を担うユニークな商店街

空き店舗の発掘について、2015年から6年間に16店舗が空き店舗を活用して新規開業した。

賑わいの創出へ向けた取組について、「くりこま夜市」はマルシェとライブを加えたナイトマーケットを夜

市と同時開催したところ、好評を得て近隣からの来場者が増えた。回を追うごとに地域外からの来場者が増え、8月にはマルシェ出店は50店舗、来場者は4,500人と大きな賑いを見せ、通りを人が埋め尽くした。

これらの取組等の結果、買い物客のみならず開業希望者や企業にもユニークな商店街として認知されてきた。

実施体制

六日町通り商店会において役員が商店街を牽引。

2016年から地域おこし協力隊（現在2名）を商店街に招聘し、開業促進活動を推進中。

また、新たな商店街振興を担う組織として、商店会に未来事業部が新設された。移住者、既存店の後継

者、外部人材で構成され、今後商店街振興の事業に携わっていく次世代が中心となり、イベント等の企画・運営を担当。

さらに、2019年に古民家カフェ店主と地域おこし協力隊のメンバーが「六日町合同会社」を設立し、開業支援事業等を推進。

新たな組織を設立することで、伝統を継承しながら新しいまちづくりを目指す体制を確立している。

キーパーソンからのコメント

商店街の変容の中でいちばん大事な資源を再認識 人の輪で新しい未来を

観光資源なし、特産物なし、高齢化率40%、栗駒もそんな全国どこにでもあるような町だ。ただし地方にとって一番大事な資源は人と最近よく思う。かつて日用品を買う場であった商店街は、人が自分らしく生きていく場へと変容してきたと感じるからだ。組織の歯車や出る杭だった人が地方へ移住し町を変えている。面白い店主がいる商店街を訪れた人は、必ずまた

会いに来てくれるしジワジワと広がる。六日町通り商店街は新しい人を受け入れる寛容さで、老いも若きも緩やかにつながり町をシェアしている。ベテランが褒めて叱り、若手はケンカもするけど仲がいい。楽しそうに暮らしている大人の背中を子どもたちは見て育つし、受け皿があれば未来も信じられる。そんな商店街であり続けたい。



caféかいめんこや 杉浦風ノ介

商店街の概要

1974年に六日町通り商店会を組織し、さまざまな販売促進事業を展開してきたが、高度経済成長期をピークに客数が減少し、衰退傾向にあった。2015年、移住者が空き店舗を改装したカフェを開店したのを皮切りに、この6年間で16店舗が新規開業した。ユニークな商店、若手開業者の多い町として注目を集め、来街者が増えている。移住してきた若い店主、既存店の跡取り、地域おこし協力隊で組織した商店会未来事業部が昨年より活動を始め、活発な協議を行いながらイラストマップの製作、イベントの企画・実施など、次世代の担い手として活躍している。

所在地 宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎六日町

人口 約6万人(栗原市)

電話 080-8161-1581

FAX なし

URL <https://infomuikamachi.wixsite.com/muikamachishotengai>

会員数 41名

店舗数 60店舗(小売業33店、飲食業11店、サービス業11店、金融業1店、医療サービス業1店、その他3店)

商店街の類型 複合型

主な客層 国内観光客、

家族連れ(親子)

／50歳代、30歳代